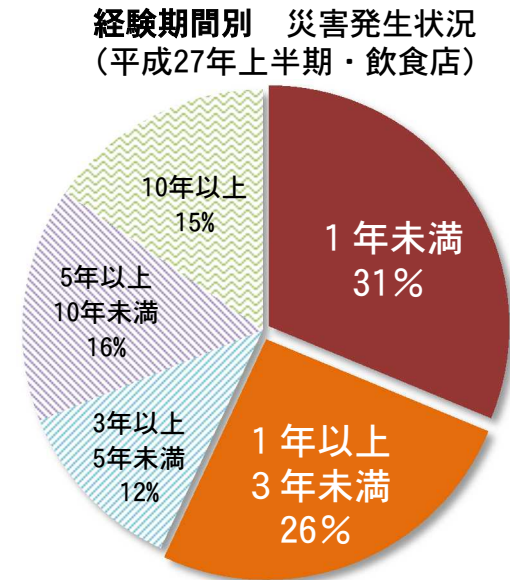
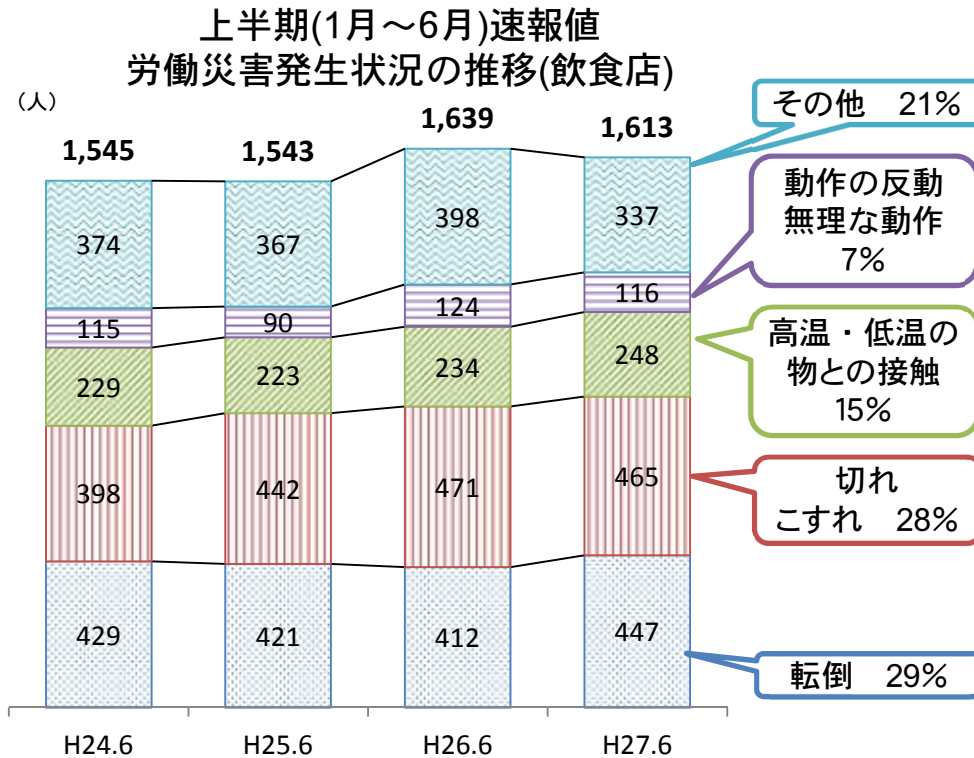
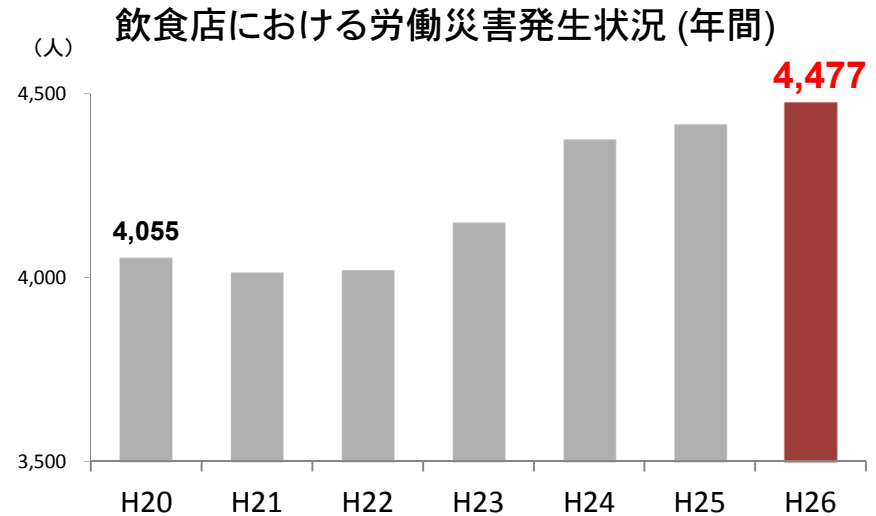


飲食店における労働災害の発生状況

ポイント

飲食店における労働災害は、年々増加傾向であり、平成26年では**4,477件**発生。上半期(1～6月)は、26年(大雪等の影響)を除き増加している。

事故の型別を見ると、「**転倒**」や「**切れ・こすれ**」が多く、増加傾向がみられる。
経験年数3年未満の被災者が**57%**を占める。



出典：労働者死傷病報告の休業4日以上死傷者数より

飲食店における転倒災害の発生状況

ポイント

飲食店の転倒災害は、平成27年上半期では**465件**で全体の**28.8%**を占め、転倒災害は年々増加傾向にある。

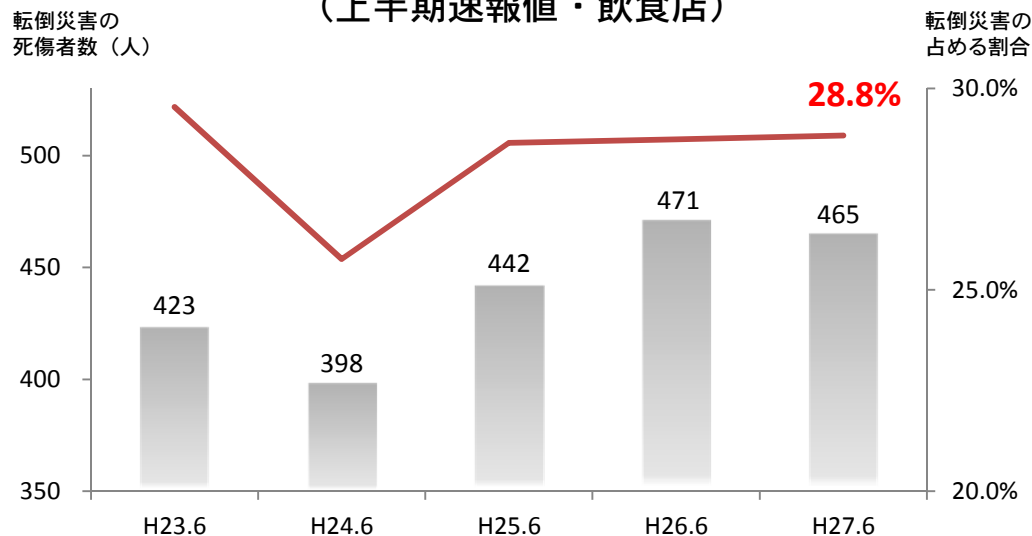
飲食店における転倒災害の特徴は

10～14時台に多く発生。

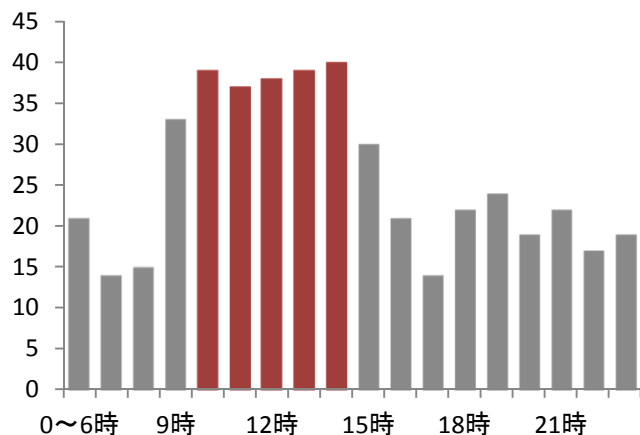
50歳以上の災害が**6割以上**を占める。

休業見込期間が**1月以上**の者が**約6割**を占め、一旦被災すると長期の休業になるおそれがある。

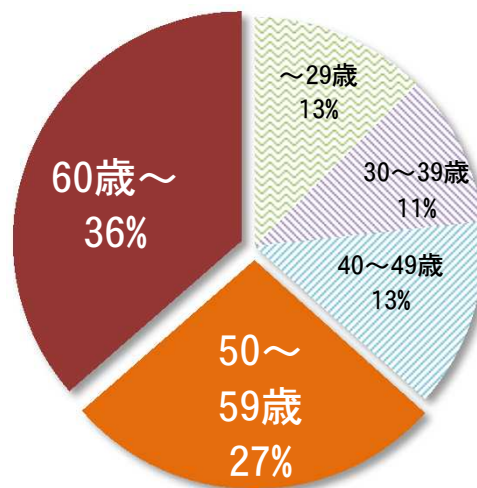
転倒災害発生状況の推移と転倒災害の占める割合
(上半期速報値・飲食店)



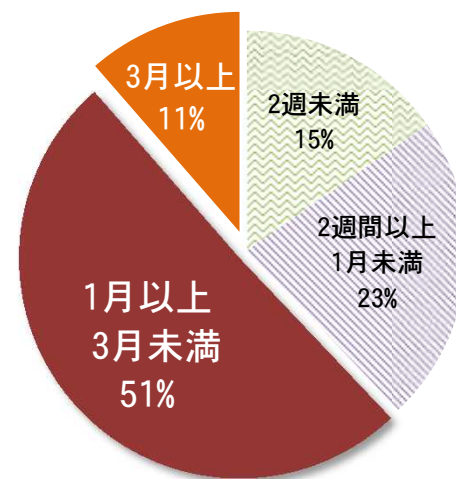
時間帯別 転倒災害発生状況
(平成27年上半期・飲食店)



年齢別 転倒災害発生状況
(平成27年上半期・飲食店)



休業見込期間別 転倒災害発生状況
(平成27年上半期・飲食店)



飲食店における切れ・こすれ災害の発生状況

ポイント

飲食店の切れ・こすれ災害は、平成27年上半期では**447件**で全体の**27.7%**を占める。

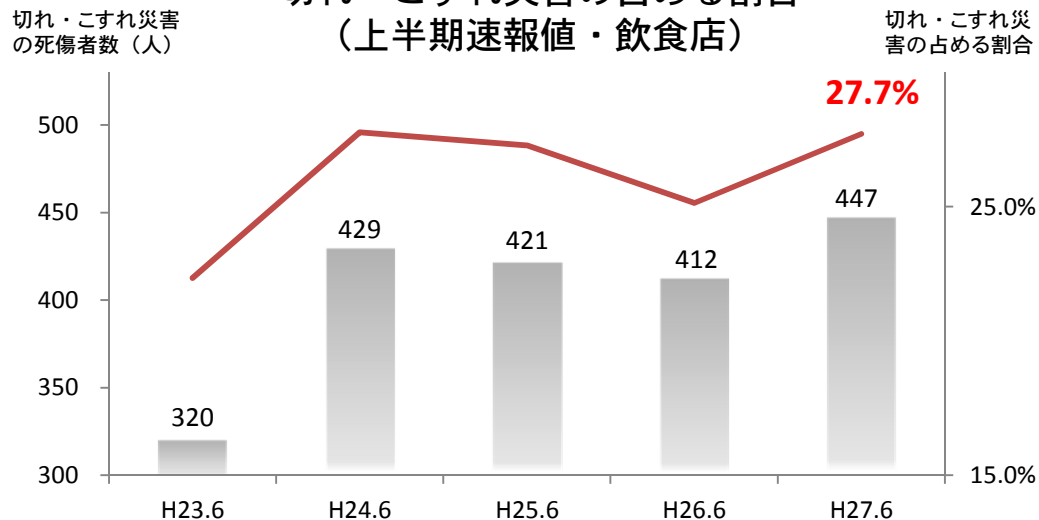
飲食店における転倒災害の特徴は

11～13時台に多く発生。

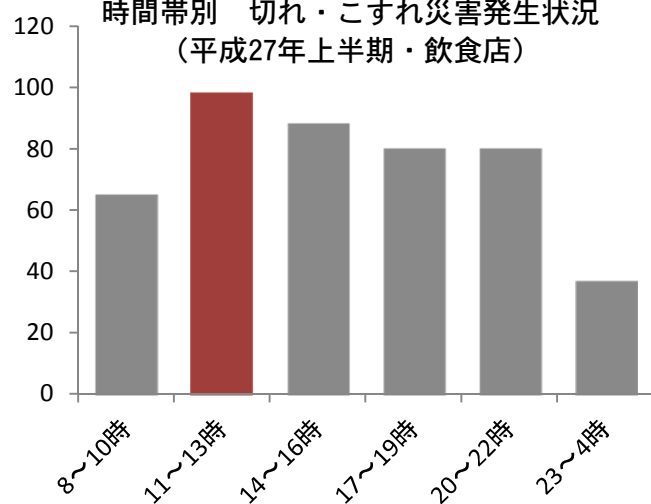
包丁等の手工具や、**ガラス・陶磁器等**による被災が多いほか、食品加工用機械による災害も発生している。

経験年数3年未満の被災者が全体の**7割以上**を占める。

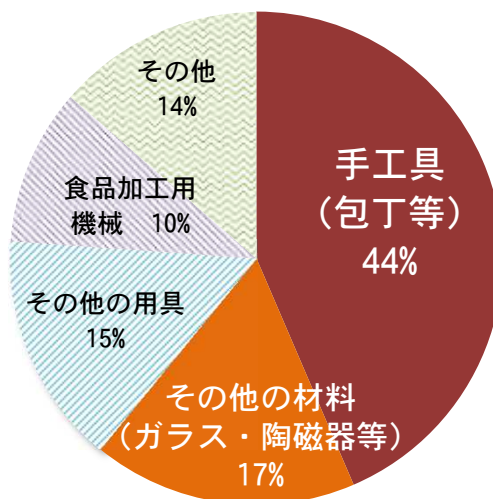
切れ・こすれ災害発生状況の推移と
切れ・こすれ災害の占める割合
(上半期速報値・飲食店)



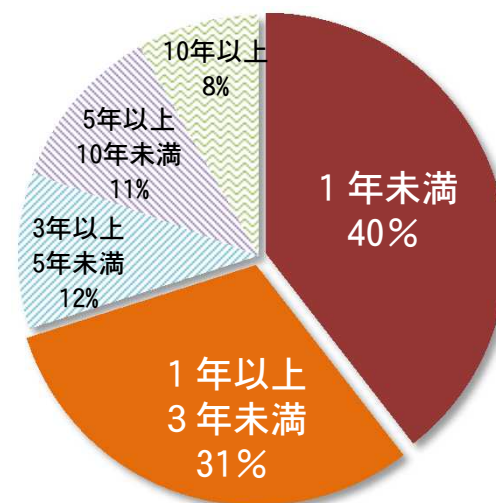
時間帯別 切れ・こすれ災害発生状況
(平成27年上半期・飲食店)



起因物別 転倒災害発生状況
(平成27年上半期・飲食店)



経験期間別 切れ・こすれ災害発生状況
(平成27年上半期・飲食店)



出典：労働者死傷病報告の休業4日以上死傷者数より

飲食店における転倒災害防止対策

飲食店での転倒等災害防止の対策には、「4S活動」「KY活動」「見える化」といった危険の対処と情報共有がありますが、安全活動の推進には旗振り役である「安全推進者」の配置が不可欠です。

4S活動

災害の原因を取り除く

4Sとは、
整理・整頓・清掃・清潔
のこと。

日常的活動でこれらを行うのが4S活動です。4S活動は、労働災害の防止だけでなく、作業のしやすさ、作業の効率化も期待できます。

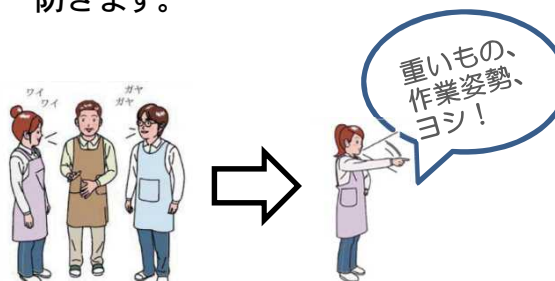


KY活動

潜んでる危険を見つける

KYとは、
危険 (K) ・ 予知 (Y)
のこと。

KY活動では、業務を開始する前に、職場にどんな危険が潜んでいるかを話し合い、「これは危ない」というポイントを「**指さし呼称**」で確認します。うっかり、勘違いや思い込みといった、災害を招く行動を事前に防ぎます。



「見える化」

危険を全員に周知する

「見える化」とは、
危険を可視化して共有
すること。

KY活動で発見した危険のポイントを、「**ステッカー**」等を張り付けることで注意喚起します。転倒・墜落転落などのおそれがある箇所で、慎重に行動することができます。



安全活動の推進には「**旗振り役**」が不可欠!
職場環境や作業方法の改善、安全意識啓発をする
安全推進者※の配置を推進しましょう。

※ 労働安全衛生法施行令第2条第3号に掲げる業種における安全推進者の配置等に係るガイドライン

転倒について詳しくは、「職場のあんぜんサイト：STOP!転倒災害プロジェクト2015」
<http://anzeninfo.mhlw.go.jp/information/tentou1501.html>

KY活動等について詳しくは、「飲食店を営む皆さまへ 労働災害防止のポイント」
<http://www.mhlw.go.jp/new-info/kobetu/roudou/gyousei/anzen/131018-01.html>